

岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成30年 3月30日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ ソバダイキイキジッコウイインカイ
団体名 「ソバでイキイキ」実行委員会
所在地 [REDACTED]
連絡先 [REDACTED]
フリガナ [REDACTED]
代表者氏名 [REDACTED]

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ㊦ 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名	耕作放棄地活用で小さな6次産業化による新たな特産品作り
事業実施区域 (小学校区)	牧石小学校区(牧石、玉柏地区) + 御津小学校区(草生地区)
①事業実施内容	現在、御津草生や北区玉柏の耕作放棄地再生としてソバと大麦の変則2毛作を行っている。ソバは、春まきの新品種「春のいぶき」や九州、沖縄で栽培されている「さちいずみ」にチャレンジしたが、岡山県の平均反収には大きく及ばなかった。理由としてはソバの栽培特性である嫌水性と、元水田であった放棄地の保水性からして相性が悪いとの判断に至った。 適地適作から言うと裏作の大麦栽培は、今後ともそれなりの収量を見込める。先年から、中四国農研機構より栽培認可をいただいた「キラリモチ」という新種苗の栽培を始めた。 今期の大きな特徴は、収穫した大麦を製粉して、就労支援事業者と大麦菓子の製品化を模索したこと。就労支援B型事業所での試作と事業者との懇談を通じて確認できた点は、今後の協働相手の選定に役立つものであった。また、ソバの種を差し上げた北区高野尻の畑においては、ソバは十分に育った。
②解決を目指した課題	特に中山間地域に広がる耕作放棄地の再生を、特産品作りにつなげるビジネスモデルとして小さなレベルでチャレンジし、社会的弱者と協働する取り組みをいかにハードル低く設定できるか?をここ数年目指してきた。 また、こうした放棄地問題をどのように社会的に認知してもらうかを、地域の公民館といっしょにセミナーなどを開催して広めていくことを目指した。 ビジネスモデルの成り立ちとして、垂直統合で立ち上げるのではなく、水平統合で協働ネットワークをいかに組織するか?を模索してきた。 この地域の特産品である、青ネギ、黄ニラにつづく特産品作りにチャレンジしていく中で、障がい者福祉事業所との水平協働の可能性を追求していく。 これらの課題は、一朝一夕に解決できる問題でなく、長い取り組みが必要となる。

③目的・目標の達成状況	放棄地再生については、その姿を元のまま保全できれば良しとするなら関係者分を合わせて8反の再生利用をこの活動期間中に達成した。 放棄地再生は、6次産業サイクルをまわし、収益を障がい者支援にという到達点で循環していく。岡山には全国で一番多くの就労支援A型施設がある。しかし、仕事がないため閉鎖する事業所が数100名単位の解雇を行っている。わたしが見た事業所でも、箸の袋入れ、成型品のバリ取りなどの単純作業が行われていた。就労支援という課題は、この活動であらたに我々が挑戦する新規の課題として認識するに至った。 高野尻村との協働は、市立北公民館の地域担当に立会いただき、地域の連合町内会にも要請いただくかたちで協働を開始した。こうした組織体制のもと、ソバの種を高野尻で栽培してもらい、今期2回の蕎麦打ち教室を開催した。来期もさらに充実したかたちで協働を進める計画である。 この5月の大麦収穫作業から就労支援A施設の通所者に働いてもらう。作業者の適性判断は、作業所におまかせする。また、地域関係者の中にも、労働力不足を口にする者もいるので、こうした取り組みが広がることを期待して今後とも様々な業務の依頼を増やしていきたいと考えている。
④企画等の工夫と情報公開	子どもを対象として「蕎麦打ち教室」を実施したことは無かったが、高野尻村の活動が親子の参加を前提に計画されているため、今回初めて「トトロのとろろ蕎麦」を4, 5歳児に作ってもらった。 自分たちで打った蕎麦をゆでてお皿にトトロを蕎麦と山芋と海苔でつくり、だし汁をかけて食べていただいた。参加者全員が、もちろん初めての経験であり、幼児が蕎麦を打つことにはかなり無理もあったが、親御さんのサポートで実施できた。 今回は大麦粉をつかったワッフル作りを提案している。

⑤ 次年度計画	蕎麦打ち教室の参加者で開業を目指す若者が現れた。現在、蕎麦打ち修行中だが、開業時には、会をあげて支援する体制を構築する。 大麦を利用した製菓事業に関して、及び、「小さな6次産業」による地域の特産品作りは、NPO 法人日本モトショクの非営利事業へ引き継ぐ。この事業継承により、今後の事業報告は、市当局に継続して達成状況を逐次報告していくことになる。
⑥ 事業実施者の評価・感想、審査会での助言及び意見を踏まえた改善	地域再生＝まちおこしのモデル作り 耕作放棄地を再生して、大麦・ソバを育て、それを製粉し、菓子や蕎麦という特産品に仕上げる。このミニ6次産業モデルは、就労支援事業に資する活動として展開すべきであるという最終モデルを今期会員と確認できた。そして、この活動の前提として補助金に頼らないということに関係者全員で確認しあった。(反面教師としては、最近話題になっている就労支援 A 型事業所の破産と福祉無視の雇用者に対する対応) まずは、障がい者を雇用する以前に上記モデルでの事業を立ち上げ、雇用を創出する。また、今回、区づくり事業で補助金を受けている「高野尻村」や就労支援事業者と協働した。今まで本事業へご指導、ご支援をいただいた区づくり事業に感謝すると共に「補助金の二重支給」の懸念を払拭するために、今期の補助金請求は辞退する。 ○区づくり推進事業審査会からの助言・意見の内容 ・高齢人口が増加し放棄地が増加する中で非常に大切な取り組み。販売ルートの確保が課題との指摘。 ・この事業を支えるためにも学区や地域とつながって会員数を増やすよう努めてくださいとのこと。 ・自己資金の確保と、予算の適正かつ効率的な執行に努めた事業報告を。 助言等の内容について、改善ができましたか。 I できた ⑦ II おおむねできた III 一部できなかった IV まったくできなかった V 改善意見がなかった

⑧事業実施経過

年 月 日	内 容
平成29. 04. 23	市立御津公民館の多文化カフェにて、主にベトナムからの研修生と地域住民の参加を得て、地産地消大麦ワッフルを作ってたべてもらった。
05. 27	障がい者として就農を希望している方の参加で、大麦の刈り取りを行った。
06. 04	同じく就農希望の方に参加してもらい、大麦の脱穀を行った。
08. 28	岡山県セルプセンターさんから紹介いただいた、就労支援B型施設で、第一回目の試作を行った。
11. 01	高β-グルガン利用促進協議会より原種苗提供契約書を取り交わしたモチ性大麦の最新種苗「キラリモチ」を撒く準備として、堆肥を畑にまいた。
平成30. 01.20	高野尻村と協働で「トトロのとろろ蕎麦」蕎麦打ち教室開催

⑩ 収 支 決 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
岡山市補助金	140,000	0	
負担金	141,400	0	
参加費			
寄付、他収入			
計	281,400	0	

◆ 支 出

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	53,000	0	
②食糧費	8,000	0	
③印刷製本費			
④燃料費	30,000	0	
⑤光熱水費			
⑥通信運搬費	16,400	0	
⑦広告料	10,000	0	
⑧手数料			
⑨使用料・賃借料			
⑩原材料費	60,000	0	
⑪委託料	74,000	0	
⑫工事請負費			
⑬報償費	10,000	0	
⑭保険料	20,000	0	
⑮旅費			
計	281,400	0	